

## イギリス国立海事博物館による e ボランティアの試みについて

西 記代子<sup>1</sup>

[Kiyoko Nishi<sup>1</sup> : An overview of an e-volunteer project at National Maritime Museum, UK]

キーワード：デジタル／バーチャル／オンライン ボランティア，クラウドリーシング，翻刻，データベース

### はじめに

昨今，様々な分野でクラウドソーシングやクラウドファンディングなど，インターネットを通じた人材活用や資金集めなどの活動が進んできた印象を受ける．その傾向は，欧米を中心として博物館界でも広がりを見せてきている．但し，徳島県を含め日本の博物館においてはまだ類例を見ないため，具体的事例の調査が有用だと考える．本稿では，博物館でのインターネットを通じた活動の一例として，筆者自身がクラウドソーシングの形で参加したイギリス国立海事博物館(National Maritime Museum)の e ボランティア活動を紹介します．

まず概要であるが，この e ボランティア活動は国立海事博物館及び国立公文書館(National Archives)所蔵資料のデータベース化プロジェクト「1915 年乗組員名簿翻刻プロジェクト(1915 Crew List Transcription Project)」の一端を担う形で実施された．このプロジェクトは，1915 年当時の商船乗組員情報が記された登記簿を 100 周年に

あたる 2015 年にウェブ公開するため，2012 年に国立海事博物館と国立公文書館との共同で立ち上げられた．基本的には，ボランティアがオンラインシステムを利用し，写真化された乗組員名簿全ての翻刻を行う．2 館の職員はそのための環境を整え運用する．最終的に，410 人のボランティアにより 75 万人分の乗組員の名前がデータベース化され，その検索ウェブサイトは予定通り 2015 年 6 月に公開された．

では次に，筆者の体験と国立海事博物館のヘレン・ウェブ氏から提供された情報を元に，運営側の視点から上記プロジェクトの詳細を紹介する．

### 博物館職員業務内容

#### (1) 翻刻データ入力システムの構築

今回の翻刻プロジェクトでは，それ以前から Pete Owens と Jan Owens という 2 人の個人が単独で行っていた類似の翻刻プロジェクト「Crew List Index Project(CLIP)」

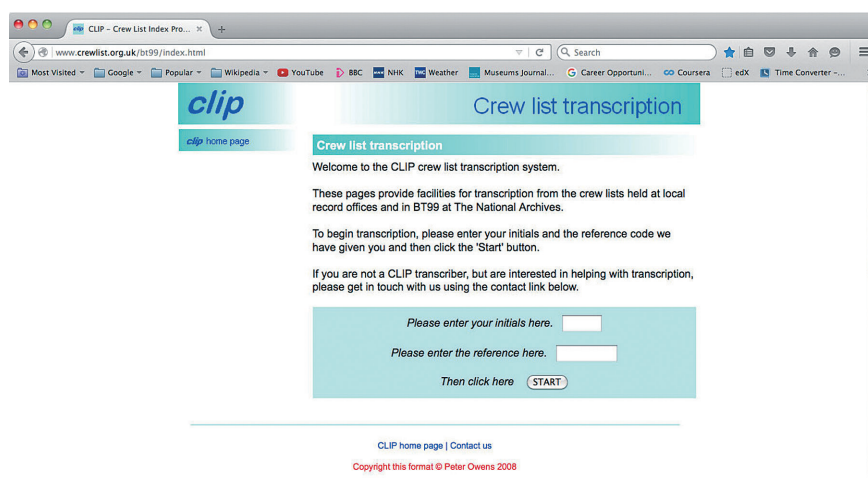


図 1. 翻刻データ入力システム CLIP(Owens, 2008)．

2015 年 12 月 10 日受付，12 月 26 日受理．

<sup>1</sup> 徳島県立博物館，〒770-8070 徳島市八万町文化の森総合公園．Tokushima Prefectural Museum, Bunka-no-Mori Park, Tokushima 770-8070, Japan.

で確立されたシステムを利用した。そのため、国立海事博物館と国立公文書館で新たにシステムを構築する必要はなく、今回翻刻する資料にある項目に合わせてフォーマットを作成し、各ボランティアにIDやパスワードを割り当てるなど、最小限の作業だけで済んだようだ。

## (2) システム利用マニュアルの作成

各ボランティアから同様の質問を複数受けることを避けるため、ログインから進捗状況報告まで画像付きで細やかな説明を含む。

## (3) 翻刻マニュアルの作成

読み取れない文字への対応や類出するであろう問題への対処法、また補助となる類出専門用語や略語リストを用意する。

例：「Cはcaptain（船長）、ABはable seaman（一等船員）」、「L'plはLiverpool(リバプール)」、「ThoやThsはThomas（トーマス）」、「数字の2に見えるのはQである」などの読み間違いやすい文字の例も含む

## (4) 名簿資料の撮影・画像デジタル化

ボランティアが翻刻をする際に参照する資料を写真撮影し、デジタル化する。本プロジェクトでは、デジタル化チームが22,000点の名簿資料をデジタル画像に変換した。

The image shows a historical document titled "AGREEMENT AND ACCOUNT OF CREW, FOREIGN-GOING SHIP". It includes a table with columns for "Name", "Rank", "Age", "Sex", "Nationality", and "Remarks". The table lists crew members for the ship "Anglo-Californian". There are also sections for "PARTICULARS AS TO LOAD LINES, SEE PAGE 3." and "FOR PARTICULARS AS TO LOAD LINES, SEE PAGE 3." with handwritten notes and signatures.

図2. 名簿資料の例(NMM, 2015a).

## (5) ボランティア運営

主に館内アーカイブ・チームが、採用試験から翻刻担当資料の割当、質問への回答など翻刻作業に関わる対応を担った。ウェブ氏によると、既にマニュアルに回答がある質問を含め、400名近くいるボランティアからの質問に個別返信していくことに多くの時間を費やしたようだ。また人事課のボランティア担当者が、各ボランティアから活動時間の報告を毎月受け、プロジェクト終了後の報告書作成用に記録することも必要だったということだ。

## (6) 翻刻精度の管理

本プロジェクトでは、ボランティア全員がトライアル翻刻に合格して参加しているため、最低限の翻刻精度は確保できる。しかし、さらに精度を上げるために一つの資料に対し、2名のボランティアが翻刻と確認の2段階で担当する。第2段階の確認作業には、担当職員と共に翻刻数も多く実績のあるボランティアを割り当てることで正確を期したようだ。当初、「(情報公開できるものが) 無いよりはまし」という精神で、第2段階の確認作業は全体の10%完了を目標としていたが、ボランティアの活動成果により100%の翻刻を確認できたという。

## (7) その他の作業

### (a) オンライン公開作業

公開情報が多い海軍と違い、情報を得ることが困難であった商船記録やその乗組員名を、研究者のためだけではなく子孫を含めた全ての人が検索できるよう、オンライン公開することが本プロジェクト発足の動機でもあった。

### (b) 参加証明書兼感謝状の作成配布

各ボランティアの氏名が入った参加証明書も兼ねた感謝状が、プロジェクト終了後にeメールで送付された。

## e ボランティアの長所と短所

### (1) 長所

(a) 職員のみでは達成できない量の作業ができること

「1915年乗組員名簿翻刻プロジェクト」では、ボランティアの総活動時間は24,800時間に上った。プロジェクト専任職員が1名いたとして計算すると、13年分の労働時間に相当する。

(b) 世界中のステークホルダーと関係を構築できること

活動のために来館する必要がないため、本プロジェ



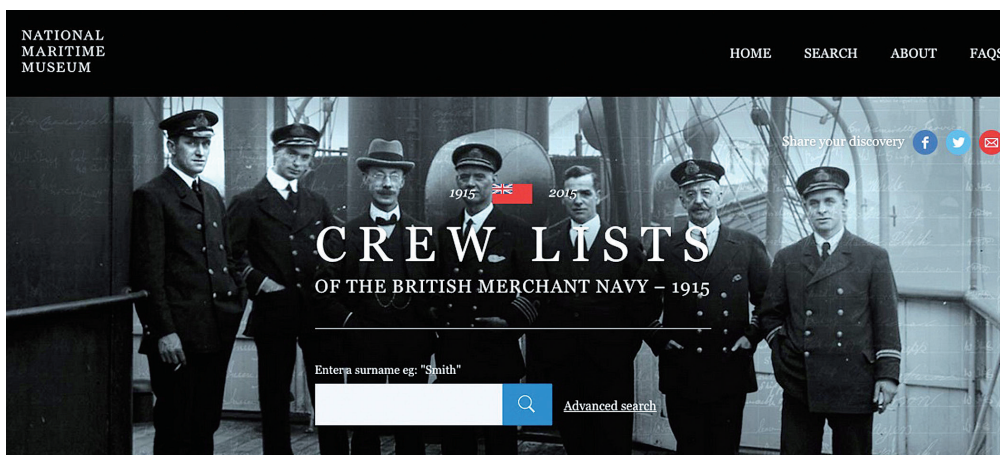


図 3. 公開されたデータベース HP (NMM, 2015b).

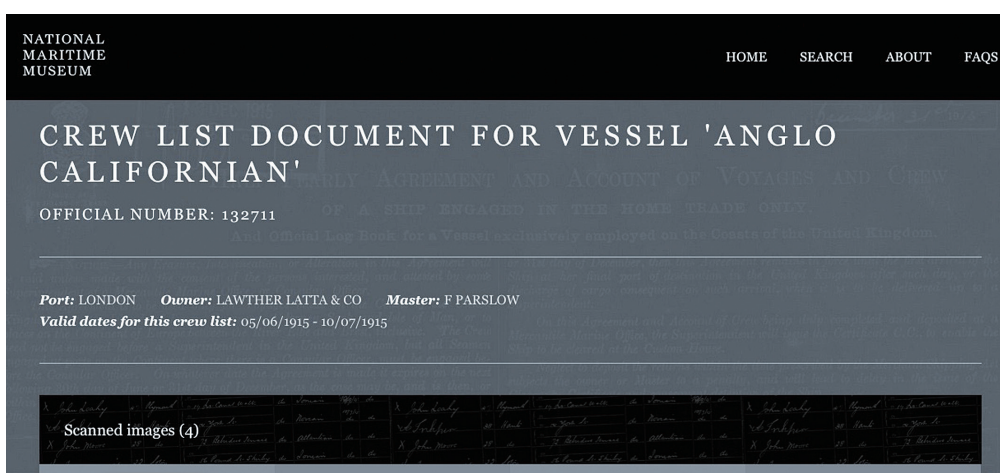


図 4. 図 2 資料に対応する検索結果 (NMM, 2015c).



**The Chairman, Trustees & Director of Royal Museums Greenwich gratefully acknowledge your valued contribution to the 1915 Crew List Transcription Project, 2009 – 2014**



図 5. 参加証明書兼感謝状例.

クトでは周辺地域に限らず、イギリス全土やフランス、イタリア、オーストラリア、メキシコなどからの参加者と新たに関係が構築された。

## (2) 短所

### (a) 特定の職員への負担が大きいこと

特に準備やボランティア運営に多大な時間を要する。本プロジェクトでは専任の職員割り当てや採用はなく、主担当である館内アーカイブ職員のうち2名は、期間中少なくとも週2日、この業務に専念する必要があったという。中でも、電話とeメールのみによるボランティアとのコミュニケーションに時間と労力を要したという印象だそう。その他、デジタル化チームやコレクション・マネージメント・チームなど各部署の職員が、作業工程別に協力する必要があった。

### (b) 翻刻精度の保持に課題

2段階翻刻でも完全ではないかもしれないが、ボランティア間で翻刻能力に差があることが考えられるため、精度を保つためには一つの資料に対し最低でも2名の翻刻者が必要だろう。

### (c) 個人情報保護、著作権、知的財産権などの問題

今回のプロジェクトに関しては、対象資料が公有に属していたため問題とならなかったそうだが、扱う資料がこれらに関わる場合は、職員やボランティアのモラルや守秘義務に対する意識の向上が求められるだろう。

## おわりに

以上、博物館におけるクラウドソーシングの例として、イギリス国立海事博物館の翻刻eボランティア活動を紹介した。今後、他館で同様のeボランティアを運用する場合、上述の短所に加え、システムの構築が別途必要になるなど、さらなる職員の時間と労力もしくは予算の確保が個別に必要となることも予想される。しかし、今回の調査対象とした国立海事博物館の関係者から受けたeボランティアに対する印象は、総じて肯定的なものだった。そして、実際にボランティアとして参加した感想は、eボランティアには時間や場所の制約がなく、またノルマもなかったため、精神的な負担も少なく、活動に参加しやすいという印象だった。このようなeボランティア形態であれば、参加者層を広げられる可能性が高い。ボランティアからの労働力搾取や職員との置き換えとならないよう導入への議論は必要だが、個人的にはこの機会がなければ知ることがなかったであろう歴史の一端を知ることができ、さらに日本にしながら他国の博物館に貢

献できる充実感を得られたことから、eボランティアは有益だと感じた。

本事例のような翻刻作業をクラウドソーシングで行う場合、初期投資こそ大きいかもしれないが、一度システムを構築すれば同様の翻刻プロジェクトに再利用できる。また、口伝資料の文字起こしや、鉛筆描きされた考古資料実測図のデジタルトレース、昆虫などの研究用生物画の作図など、他分野への応用の可能性もある。そして、データベース整備や他言語への翻訳などは分野を問わず応用可能なので、様々な種別の館でもeボランティアを含めクラウドソーシングの導入を検討する価値はあるのではないだろうか。

## 謝 辞

本報告の作成に当たり、「1915年乗組員名簿翻刻プロジェクト」に関する内部情報をご提供いただいた国立海事博物館ボランティア・マネージャーのヘレン・ウェブ氏に心よりお礼申し上げます。

## Acknowledgement

I would like to express my gratitude to Helen Webb, Volunteer Manager at the National Maritime Museum for providing internal information of the “1915 Crew List Transcription Project” that made my article comprehensive and beneficial to those who intend to conduct a similar project.

## 引用図出典

National Maritime Museum (NMM), 2015a. Agreement and account of crew [online]. Available from : <http://1915crewlists.rmg.co.uk/document/206573#&gid=1&pid=1> [Accessed 9 December 2015].

National Maritime Museum (NMM), 2015b. Crew Lists of the British Merchant Navy—1915 [online]. Available at : <http://1915crewlists.rmg.co.uk/> [Accessed 9 December 2015].

National Maritime Museum (NMM), 2015c. Crew list document for ‘Anglo Californian’ [online]. Available at : <http://1915crewlists.rmg.co.uk/document/206573> [Accessed 9 December 2015].

Owens, P., 2008. Crew list transcription [online]. Available at : <http://www.crewlist.org.uk/bt99/index.html> [Accessed 9 December 2015].